

令和 7 年度 第 2 回 学校運営協議会（報告）

日時：令和 7 年 10 月 21 日（火）

午後 5 時～7 時 30 分

会場：静岡高等学校 会議室他

1 開 会（会議の進行は教頭）

（1）校長挨拶

外装工事中の学校での開催となった。当日のスケジュールとして、最初に給食の試食、その後学校説明、授業参観、意見交換会が予定されている。本日が学校公開日でもあり、中学生が授業見学に来る。委員は自由に教室を見学してほしい。

（2）教頭より本日の日程説明

配布資料及び日程について確認後、給食の試食に移動する案内をした。

2 給食試食（17:05～17:30）

3 学校概況説明

（1）校長

学校案内についての説明

前年のバージョンから変更点として写真をより多く掲載した。学校紹介は思い出に残った行事や修学旅行などが含まれている。重点目標やスクールミッションに基づいて学校生活を送っている。また、令和 10 年度から募集停止となるが、新入生の受け入れについては、今後 2 回実施される。

（2）教頭

授業参観についての説明

13 名が在籍する 1 年生は、数学の授業を受けている。14 名が在籍する 2 年生は、生物基礎の授業を受けている。同じく 14 名が在籍する 3 年生は、選択授業を受けている。選択授業の音楽 II は、2 名の生徒が授業を受けている。少人数での授業に価値がある。4 名が在籍する 4 年生は、英語の授業を受けている。場所については、資料のとおり。

4 授業参観（定時制）

5 協議・意見交換等

（1）教頭

定時制課程の現状と取り組みについて説明

職員の構成は、校長、教頭、養護教諭と教諭が 8 名いる。教諭のうち、初任者が 3 名である。教員は、大変意欲的に業務に当たっており、情報交換も頻繁に行われている。生徒は、男子 30 人、女子 15 人。

通級指導を実施しており、活動内容は、編み物、カードゲームなど個に応じたものとなっている。通級指導の効果は、授業の出席率として数字に表れており、今後もその効果が期待される。受講者は、増加傾向にある。

学び直しの取り組みでは、1 年生で 2 単位の印高基礎（学校設定科目）を設け、小学校・

中学校レベルの内容から学習できる体制を整えている。カタカナの書き方やアルファベット、基本的な計算など、個々の生徒のレベルに合わせた教材を用意している。

生徒の状況では、小中学校時に不登校傾向にあった生徒も、本校入学後に改善される者がほとんど。令和6年度の転退学者はゼロという成果を上げている。また、多様化する生徒の特性に対して、教員が柔軟に対応している。

4年生は、就職が4名である。

在校生のアルバイト就業率は44%で、正社員はゼロ。この傾向は、全県的なもので、かつての勤労学生という定時制のイメージと異なる状況である。

夏休みに、新入生の出身中学校に現状報告に伺っている。生徒の様子(頑張り)をお伝えすると、驚きとともに大変喜んでくれる。

## (2) 協議(会長が進行)

本日の内容について感想をお願いしたい、その後フリートкиングの時間とします。

### ア 感想

A委員：楽しい授業である。先生も楽しんでいて、生徒が喋れる雰囲気を自然と作りだしている。生徒一人ひとりをよく見ている。生徒が減ったときに、どのようにして、学校としての機能性を維持するかが課題であるが、たぶん大丈夫であると感じている。自習コーナーの照明は暗いのではないか。

B委員：A委員が言ったように、各教科の工夫がある。感銘を受けたのがドラムの授業である。きちんと感性、感覚を引き出して成功体験を積ませている。サンドイッチの授業もすごくよかった、リアルに近いものを作るという五感を磨くいい体験をしている。

C委員：全ての授業を参観したが、全員しっかり授業を聞いている。素晴らしい。

D委員：スクールミッションにある、きめ細かくあたたかみのある教育ができると思う。先生方は、生徒一人ひとりを見ながら、色々なことに取り組んでいる。この空間は、すごく貴重である。

E委員：保育基礎の授業にとても感動した。定時制の生徒・保護者の許可が得られれば、探究学習の様子を是非取材したい。もっと、定時制の中の素敵な世界について、メディアを通じて発信していくといけたらいいと思った。

F委員：定時制では、来年度の生徒数変動(卒業4名、入学10名程度)を見据え、現在の教育体制の維持が急務である。近年の入学生は不登校傾向にあった生徒が多いが、当校の丁寧な指導や居場所づくりにより欠席が減少するという成果を上げている。この成果を支える巡回通級教室や学び直しなどの取組を継続するためには、教員間の連携強化が不可欠である。これらの新しい取組には教員の理解が不可欠であり、組織的な対応が必要である。校長には、生徒一人ひとりにきめ細かく対応できる適性のある人材を継続的に配置するよう県教育委員会に働きかけることを要望したい。現在の教職員構成は若い教員や女性教員の配置などバランスが良いと評価でき、この体制を維持し、教員が中心となって目標を達成する組織づくりを期待した

い。

校長：養護教諭は、特別支援学校の勤務歴がある。生徒一人ひとりの状況を把握し、対応を考えてくれている。音楽の非常勤講師は、学校のこともいろいろと気にかけてくれている。美術の先生は、全日制の本務教員。家庭科と数学の教員は2年目だが、ベテランで質が高いため、若手教員が育つ環境である。

A委員：定時制の先生は希望してきているのか。

校長：初任者は夜間定時制、異校種、遠隔地のいずれかを経験する。初任校が定時制のケースもある。希望して来ている先生もいる。

A委員：この定時制の先生方は、自分の思っていたのと違う。皆さん、すごく楽しそうにやっている。そういうことにすごく理解があるとか、興味がある先生方が来てくれているのだと思った。

校長：全日制とは、異なる仕事だと思う。

A委員：適性があると思われる若い先生をリクルートしているのか？

校長：校長は、指名はできないが、こういう人材が必要だという希望はできる。定時制については、きめ細かく、一人ひとりの生徒の話を聞いて、指導していくことができる人を配置してほしい、という希望を出している。

F委員：20年くらい前は、元気のよい「やんちゃな生徒」が多かった定時制だが、現在は不登校の生徒が増加している。社会の変化に伴い、定時制の生徒も様変わりし、自ずと求められる教員像も変わり、先生方の接し方も大きく変わってきた。

E委員：廃校予定の「山の学校」が幸せな場所だったことに感動した経験から、先生と生徒・保護者の関係が近い定時制にも同様の良さを感じている。世間の定時制へのネガティブなイメージ（収入が低い、不登校など）と異なり、今日見ただけでも素晴らしい点が多く、ぜひ外部へ発信したいと考えている。

B委員：引きこもりがちな生徒の多くが、コミュニケーションを苦手としている。定時制は、対面での人間関係や信頼関係を再体感できる貴重な空間である。また、定時制は、朝方に起きられない生徒など多様なニーズを持つ子どもたちに対応しており、「個別最適化」教育の最前線を担っている。生徒の「学びたい」という意欲を受け止め、大人が個別に支援できる体制を整えることが、総合的な探究の充実につながる。生徒が読み聞かせや制作を行う「絵本の授業（保育基礎）」がよかったです。

校長：定時制の存在意義はそこにある。学校に行く、クラスの中で同じ人たちと毎日言葉を交わしながら、ちょっとずつ人間関係を学んでいく。本校の定時制は先生たちも上手に関わることができるので、それができる場所だと思う。

B委員：単位制には利点があるものの、自分で授業を選択・組み合わせる力や授業

ごと異なるメンバーの中で人間関係を築く力が必要となる。それができる生徒であれば、全日制の学校に通えているはずである。

校長：全国の高校生の約1割が通信制を行っている。それは、日本にとって良いことなのか、ということは議論が必要である。

B委員：通信制にも良さがあるが、コミュニケーションが苦手な生徒が定時制に来て、皆とつながる中で「人とつながっても怖くない」と思える空間を本校が提供している。できれば生徒には人と関わってほしい。

D委員：同じ高校で、全日制から定時制へ移るルートはないか。

校長：転学をすれば可能。

B委員：心の病で登校できなくなった場合、いきなり転学することは全国的にほとんどなく、まずは休学して冷静に状況を考えるのが一般的である。

校長：環境が変わった方がいいことが多いので、同じ学校に通うのは、抵抗が多い。愛知県に一つの学校に全日制、定時制、通信制がある、フレキシブルハイスクールというシステムがあり、今後増えると思う。例えば、入学時は通信制であるけど、定時制に移ったり、定時制に在籍していたけど、次の学年は全日制に移ったり…逆もまたしかり。学校の体系が、今後変わっていく可能性がある。

B委員：学校の多様化は進んでいく。民間企業が設立した外国の有名大学進学を専門とする高校とか、東京の富裕層の中には、シンガポールやマレーシアの学校に進学する人もいる。小学校から海外の学校に進学するケースもある。日本の有名塾も海外に進出して、塾自体で日本語を教えたり、オールイングリッシュの授業をしている。

日本で、医学部進学者30名を目標にして、静岡の中でも上位校でいる高校は、中学生の目標の存在である。一方で、3割の投網で引っかからない子たちが存在する。だから、この定時制のような素晴らしい教育をしている学校が残ってほしいと心から思う。

現在、私は他県の教育改革に携わっている。その県も公立高校の統廃合が進む一方で、私学や通信制高校が参入している。裕福な家庭の子は、スポーツ推薦で県外から私学に進学する。

県知事は、県の人材を、どう若手を地元に残していくかを、真剣に考えるべきである。特に進学校にいる子は、東京や海外に進出する。7割から下の子たちが地元に残り、県を支える。国を動かす学力と村を支え活力を与える学力。村を支える子たちを、個性を尊重しつつ、のびやかに教育することが、その町の豊かさにつながる。

校長：静岡県として、そういう考えを持ってほしいと思う。

B委員：こういう環境を先生たちはすごく大事にしている。

F委員：探究発表会があるので、講評も含めてZoomで参加できないかということをお願いしたが大丈夫でしょうか。

教頭：1月23日の金曜日が4年生の発表になっている。Zoomと対面の両方で想定している。1月30日の金曜日と、2月6日の金曜日が1～3年生の発表となる。

F委員：探究発表会を見たり応援したりする機会として、ご都合のつく範囲でよろしくお願ひしたいと思う。これで司会の事務局にお返しする。

教頭：司会進行ありがとうございました。

## 6 閉会・諸連絡

### (1) 議事録について

後日、内容を確認していただき、ホームページへ掲載します。

### (2) 今後の予定

第3回は、令和8年2月上旬を予定しています。